



たらあ

平成27年
11月号
平成27年11月1日発行
No.500

発行/多良間村役場・編集/総務財政課広報係 〒906-0692 宮古郡多良間村字仲筋 99-2 ☎0980-79-2011



輝く！
家庭のふれあい



the most beautiful
villages
in japan

多良間村は、
39番目の

「日本で最も美しい村」

連合に加盟
しています。

平成
27年度

多良間村民運動会

平成27年度多良間村民運動会が去る文化の日に、小学校グラウンドで開催された。「スポーツをとおして村民の健康増進と心のふれ合い・明るい平和で豊かな地域づくり」と村の活性化を図る目的で行われた。

開会式で伊良皆光夫村長は「爽やかな秋晴れのなか、村民皆さんが一つになり、楽しく健康づくりに取り組んで頂きたい。また、大会終了後は「ゆがふう」雨が降るようお願いしたい」と激励した。

全20種目の競技を各区代表選手、1140名余が競争に挑んだ。糸繰り競争、ナワナイ競争、竹馬競争、ワーガニマース、ギッチョウ等々で熱戦を展開し、秋空の下、爽やかな汗を流した。

また運動会終了後には、じゃんけん大会が行われ、兼浜自転車店から賞品として、子供用と大人用自転車各1台提供された。参加者らは自転車獲得を目指し、じゃんけんに挑戦した。

結果、自転車を獲得した方は、幼稚園児の浜川亮磨君、大人用は中学生の親里蓮音君でした。



人権週間にちなんで

島で育つ人権の心

多良間村人権擁護委員 垣花奈緒子

人権擁護委員の委嘱を受け、あらためて人権について考えてみました。人権とは私たち人間が生きて行くために必要な自由、平等の権利とあります。この当たり前のことが守られずに世の中には人を傷つけたり、いろんなトラブルから人権侵害に発展するケースもあり、その解決のために相談にのったり、法務局や関係機関への橋渡しをするのも人権擁護委員の活動の一つです。

多良間島という風土の中で子ども達への人権教育や大切な人権が自然に守られていることが多々あります。島には年間を通して学校や地域での行事、神事などがあります。村の代表的な行事として、国指定重要無形文化財である八月踊りです。年々、人口減少に伴い演じる人が不足

し、小・中学生や島外の学校の先生方の協力も得ながら祭りが行われ伝統文化を継承しています。子ども達は地域の大人からいろんなことを教えてもらうことで、先輩や大人に対するあこがれや尊敬の念を培っています。

また、島には高校がなく子ども達は、中学校を卒業したら進学のために親元をはなれなければなりません。15歳で島を出て自炊しながら学校生活を送ることは、並大抵のことではなく、親は日頃から自立するための躾や教育、精神力を身につけさせて送り出します。

子育ても島中が顔見知りで、声を掛け合って見守ってくれます。農作業の面では、機械化が進む中ではあるが「ゆいまる」も健在です。お互いに助けたり、

助けられたりしながら、近隣、友人との絆を深めています。70代の女性がこの年までお世話になった先輩や地域に恩返しをしたいとデイサービスの利用者に温かい帽子や靴下の手作りする。プレゼントをして喜ばれています。運動会では、幼稚園、小学校の子ども達に学用品の贈呈もありました。

先日私は、心温まる体験をしました。買い物をして少し離れた車に積み込んでいたら、若いお母さんが残りの荷物を車まで運んで来てくれました。何気なく自然体で周りをみて行動に移せる彼女に感心しました。日々の暮らしの中で、家族・友人・隣人への感謝の気持ちを持つことで自分も何かしたい、人の役に立ちたいとの思いが芽生えるものです。

ラジオでも活躍中の盲目の歌手、大城友弥さんを招いて子ども達への人権講話やコンサートが多良間島でありました。講話の中で自分の生い立ちを話しながら、夢を持つことの大切さ、他人に対して思いやりのある言葉使いをすることで、やさしい気持ちになれることを子ども達に伝えてくれました。コンサート終了後には、一般の方から「こんな素晴らしい催しは初めてで感動した。ありがとうございました」とお礼の言葉もありました。

私は、これから微力ながらも、平成27年啓発活動重点目標の「みんなで築こう人権の世紀」を考えよう相手の気持ち 育てよう 思いやりの心」を島の人々に浸透できるよう、もう一人の委員と共に宮古島市の委員や法務局、役場の指導や協力を得ながら、人権相談や啓発活動を行っていきたいと思います。

困ったこと、気になること、悩み事があれば相談に来てお話をしてみませんか。お話をすることで気持ちが楽になり、解決の糸口がきつと見つかると思います。

*多良間村人権擁護委員は、垣花奈緒子・手登根健市です。

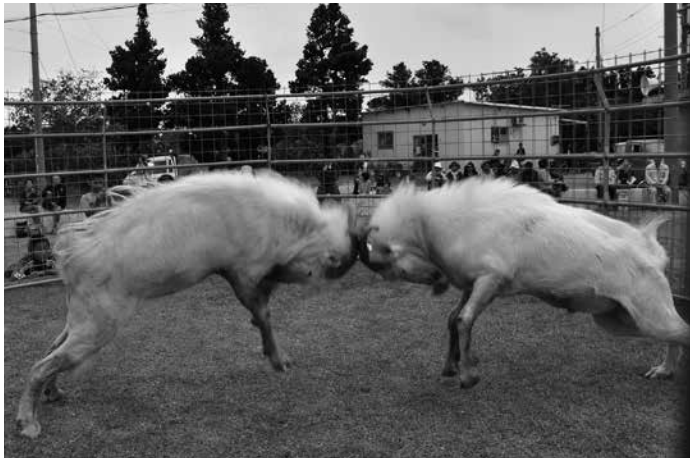


第11回多良間ピンダアース大会 初出場目立つ

第11回多良間ピンダアース大会(多良間村観光協会主催・山羊生産組合共催)が村多目的広場で開かれた。

同大会は、「たらまピンダ」をPRし付加価値を高めながら、山羊の生産向上や観光振興を図ることを目的に展開する。

大会は体重別で競い、軽量級40^キ〜54^キ、中量級55^キ〜69^キ、重量級70^キ以上で競い合い、軽量級と中量級でそれぞれ



下地雅晴さん所有のヤギが優勝。重量級では、運天辰男さん所有の荒鷲号が優勝した。また、ヤギの鳴き声大会も行われ、子供の部では野原零さんが

「かわい子ヤギの鳴き声」で、また大人の部では、池間和彦さんが「空腹の鳴き声」でそれぞれ1位になった。

今大会は、軽量級で初出場が目立ち、次回大会はより一層の盛り上がりが期待される。「たらまピンダ大使」として委嘱さ

れた「川満しえんは「ピンダアースはすごい、これからも盛り上げてほしい」と呼びかけた。



村立保育所運動会

去る10月、村立保育所(本村芳子所長)で運動会が開催され、地域の方や保護者らが駆けつけ園児たちを励ました。「家族のふれあいで輝こう」をテーマに35人の園児が駆けっこやエイサー、玉入れ、ダンスなどを元気に行った。

開会式で本村所長は「今日はいつもとより園児たちが笑顔で輝いている。応援お願いします。」と呼びかけた。伊良皆光夫村長は方言であいさつ「今日はおじいさん、おばあさん達も応援に来ています。元気よく頑張つて」と励ました。方言のあいさつを聞いた園児たちからは大きな声で笑ったり、まねしたり、和やかな開会式であった。



調査報告

オランダ商船
ファン・ボッセ号

九州国立博物館 研究員 佐々木蘭貞

1857年、3本マストのオランダ商船ファン・ボッセ号が高田海岸沖に座礁し、多良間島の人々が乗組員を救護した話は、村の歴史資料などから見る事が出来ます。今でも海岸では陶磁器のカケラなどが散乱し、また、水中にも当時の遺物が残っていることが地元ダイバーによって発見されています。しかし、実際にはどのようなモノが海に残っているのでしょうか？そして、どれくらいの範囲で広がっているのでしょうか？今まで誰もそれを調べた人はいませんでした！

去る10月下旬、九州国立博物館が多良間島で音波装置などの水中探査機材を用いて「水中考古学」調査を行いました。考古学と聞くと、土の中の遺跡を掘るイメージがありますが、水中にある遺跡（沈没船など）もその研究対象となります。しかし、日本ではこの分野の研究があまり進んでいません。中国や韓国、欧米諸国は水中の考古学を専門とする国の機関がありますが、日本ではそのような組織は未だありません。そこで、文化庁が平成25年度より「水中遺跡調査検討委員会」を設置し、様々な調査を通してこれから日本でどのように水中遺跡を保護していくのかを検討しています。その調査の一例として、九州国立博物館が主体となりファン・ボッセ号に関する遺跡の調査を行うことになりました。調査の目的は、最新の水中探査機材を用いて高田海岸沖の3次元海底地形図の作成、水中遺物の確認、海底面より下にある堆積層の確認です。

水中遺跡の探査は日本国内で年間1〜2件程しか実施されていませんが、どうしても良間が選ばれたのでしょうか？高田海岸は村指定文化財「オランダ商船遭難の地」として登録されています。実は、日本国内でもこのように沈没船が史跡として登録され、そして、ダイバーが訪れることができる場所が数件しかありません。つまり、多良間の史跡は全国的にも珍しい「歴史を実証する宝」と言えます。

水中の探査は様々な機材を船に取り付けて行います。今回の調査では、最初に海底のマップを作製しました。海の中では光が屈折してしまい、また、GPSも使えません。そのため、音波探査（ソナー）が良く使われます。音の反射する速度と角度の違いから海底の起伏を捉え、3次元のマップを作成することが出来ます。何か貴重なモノが発見されたときに、このマップに記入することで正確な位置を知ることが出来ます。次に、水中ロボットを使い海底の様子をビデオに撮影し、陶磁器のカケラが散らばっている場所を確認しました。また、鉄製の箱のようなものもありましたが、これは、ファン・ボッセ号の積み荷であったのか、定かではありません。最後に、海底断面を可視化する特殊な装置を使用し、海底面よりも下の堆積状況と、何か大きなモノが埋まっているかを調べました。その結果、船体の一部など大きな遺物などは発見されませんでした。海底の状況を詳しく知ることが出来ました。

ファン・ボッセ号は沈没した後、バラバラになり遺物の多くは過去150年の間に流されたと考えられます。しかし、まだ砂の下に遺物が溜まっているところもあるようです。今後は考古学の経験や積んだダイバーによる確認や金属探知機を使用した調査などを行うことにより、積み荷の一部や当時の様子を知る手掛かりを見つけることができるかもしれません。今回の調査では、遺跡の性格を知るための十分な情報を得ることが出来ました。

多良間に滞在中、海の調査だけでなく、島の歴史資料や史跡などについても勉強をしました。多良間村の資料によると、18〜19世紀にかけて40件ほどの座礁・沈没の記録がありました。これは、国内の他の海域に比べても多く、帆船の時代には多良間が海の道にあり、さらには、海の難所であったことを示しています。また、村の人々にも話を聞く機会がありました。海岸で拾った遺物などを見せていただきました。多良間のまわりには、遺物が拾える場所が数か所あるようで、他にも沈没船が多良間の沖に存在しているのでしょうか？

多良間での滞在は1週間と短かったです。島の皆様の協力により、有意義な時間を過ごすことが出来ました。村の中学2年生を対象に行った水中考古学についてのプレゼンテーションでは、歴史の大切さを分かってもらえたかと思えます。将来、多良間から水中考古学者が育つことを期待しています！

多良間小学校 黒糖づくり学ぶ



村立多良間小学校4年生児童(15名)を対象に、沖縄県や製糖工場、村産業経済課が「黒糖の日」関連で黒糖消費拡大キャンペーンとして黒糖づくり体験を行った。

サトウキビを一本々圧搾し鍋で煮詰め黒糖が出来るまでの工程を体験。夢パティオの体験棟で、製糖工場の職員が作業工程を説明しながら、絞った糖汁を煮詰め飴状になった「アミジャタ」や鍋の底についた「ナビガラ」など、出来たての黒糖を味わった。

また、体験後に来間春誠工場長がミニ講話を行い、多良間の黒糖についてより深く学んだ。児童からは、いろいろな質問があり来間工場長はこれに答えた。



沖縄県内には、8つの島で黒糖が生産されている。(多良間島、伊平屋島、伊江島、粟国島、小浜島、波照間島、西表島、与那国島) 去る26年産においては、県内の黒糖生産量は多良間島が4割を占めている一大産地であること。

(7、126ト内多良間産2、888ト) サトウキビの品種によって、出来上がる黒糖に特徴があり、またミネラル分などの成分が異なり色や味が違う黒糖が出来る。2、888トの黒糖を作るのにサトウキビの立毛本数は7、500本と試算すると、約2億本。

多良間島産の黒糖は全サトウキビ農家がエコファーマー認定を受けており、食の安心・安全で自信を持ち全国へ出荷していると児童等の質問に答えた。

●村政へのアイディア(提案)募集●

「たらま」大好き皆様から村政に対して、『こうしてほしい』『ああしてほしい』『こういうことがあればいい』『こういうことができれば便利だな・役立つな』など、どんなささいなことでもアイディア(要望)を募集します。

記

- 1.募集期間 年中いつでも受付します。
- 2.募集方法
 - 村代表へのメールアドレス soumutrm@vill.tarama.lg.jp
 - 投書箱：村役場玄関前に設置！
 - 村役場総務財政課への手紙・FAXなど方法は問いません。
〒906-0602 多良間村仲筋99-2番地 多良間村役場総務財政課
電話：0980-79-2011 FAX：0980-79-2120
- 3.回 答 採用できるか・できないか、村の考え方を広報誌に掲載します。

多良間村人口ビジョン・ 総合戦略策定に係る アンケート調査協力について

多良間村の課題である少子高齢化の進行及び人口減少に歯止めをかけ、本村の特性を生かした将来にわたって活力のある地域社会を実現するために、「多良間村人口ビジョン・総合戦略」の策定を進めているところです。総合戦略の策定において、住民のみなさまにご意見をお伺いしたいと思っております。つきましては、アンケート調査を12月から1月にかけて行う予定ですのでご協力お願い致します。

担当：総務財政課 本村 聖

申年トウイ会祝について 『さる年生まれ集合!』

記念撮影

日時：平成28年2月20日(土) 午後1時～
場所：多良間小学校中庭にて

祝賀会

日時：平成28年2月20日(土) 午後3時～
場所：多良間村コミュニティー施設

お問合せ

会長：亀川一成 ☎090-8293-9304
副会長：大浜敏幸・東風平雅樹・仲宗根恵
事務局：島袋雅也・志堅原誠 ☎090-8293-9304





子宮頸がん予防ワクチン接種後の 体調の変化に関する状況調査について

- アンケート調査は、対象者53人に対し、回答は13人(回収率24.5%)でした。
- まだ3回すべての接種を終えていない8人に対し「2回目、3回目の接種を希望するか」の質問には、「希望しない」が7人、「どうするか検討中」が1人、「副反応の問題が解決されるまで接種は見送る」0人、「3回目まで接種する予定」0人でした。
- ワクチン接種後の体調の変化については、「はい」が2人、「いいえ」が11人でした。
- 症状については、延べ人数で「注射部の痛み、かゆみ」が2人、「注射部の腫れ、あかみ」が1人でした。
- 症状の期間については、「2日以上1週間未満」が2人でした。
- ワクチン接種について意見を記入した人は0人でした。

*平成25年3月31日までに、市町村の助成により、ヒトパピローマウイルスワクチン、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンのいずれかを接種した方のうち、接種後に何らかの症状が生じ、医療機関を受診した方は、接種との関連性が認定されると、医療費・医療手当が支給される場合がありますので、お心あたりの方は、具体的な請求方法等について、独立行政法人医薬品医療機器総合機構の救済制度相談窓口（フリーダイヤル）0120-149-931、ご利用にならない場合は03-3506-9411（有料）にお問い合わせ下さい。

多良間村役場 住民福祉課（保健師：青柳） ☎79-2623

12月1日は「世界エイズデー」 AIDS IS NOT OVER だから、ここから



エイズは、「後天性免疫不全症候群」ともいい、HIV（エイズの原因ウイルス）に感染することによっておこる病気です。

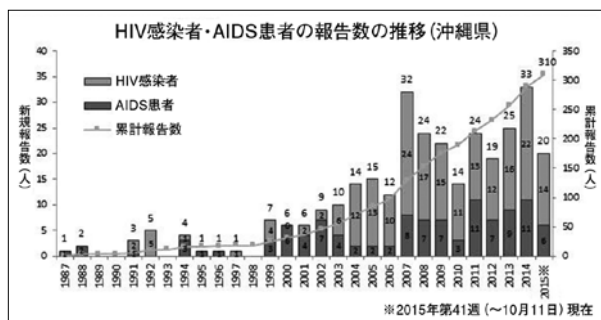
沖縄県は、全国的に見てもHIV/エイズの報告数が多い地域となっています。

平成26年（2014年）の報告数は33例（HIV感染者22例・エイズ患者11例）で、過去最高となっています。

HIV新規感染者は、20～50歳代に幅広く分布し、また診断時にすでにエイズを発症している事例が増加しています。

たとえHIVに感染していても、早期に発見し適切な治療を始めればエイズの発症を遅らせることができ、感染前と変わらない生活を送ることも可能です。

宮古保健所では、世界エイズデーにあわせて、無料・即日・匿名検査の拡大を実施します。今回は夜間検査も行っています。



●11月30日(月)～12月4日(金) 午前9時～11時 午後1時～3時

●夜間検査(要予約):12月1日(火)・12月3日(木) 午後6時～8時 ●場所:宮古保健所1階検査室 ☎73-5074

*HIV検査のほかに梅毒検査・クラミジア検査・肝炎検査についても、希望者には実施します。

*通常は、毎週火・木が検査日です。

病害虫まん延防止にご協力を！

移動規制の対象地域から以下の持ち出せないものが届いた場合には、植物防疫所にご連絡をお願いします。

移動規制の対象地域及び持ち出さないもの

*沖縄県全域、奄美群島、トカラ列島、小笠原諸島、徳之島、沖永良部、与論島など

*サツマイモ・ヨウサイ・グンバイヒルガオ・モミジバヒルガオ・カンキツ類・サルカケミカン・ワンピなど生植物等

詳しくは下記へ

農林水産省植物防疫所 宮古島市平良出張所: ☎0980-72-2433 <http://www.maff.go.jp/pps/>

10月

世帯数と人口 (平成27年10月末現在)			
総世帯数	524 (-3)		
総人口	1,197 (-9)		
男	642	女	555
区別	人口	世帯数	
土原	66 (-2)	31 (-2)	
天津川	94 (-2)	39 (-2)	
宮良	107 (-1)	52 (-1)	
嶺間	69 (-2)	30 (0)	
道大	147 (-1)	65 (0)	
木吉	193 (-1)	93 (0)	
川納	296 (4)	123 (2)	
	220 (-4)	87 (0)	
	5 (0)	4 (0)	
出生	0	死亡	2
転入	6	転出	13

おくやみ () 内は前月比

字仲筋 村山 春恵 平成27年10月3日(76歳)
字塩川 渡口 セツ 平成27年10月7日(85歳)

緊急ダイヤル

火災・救急 ワンクッションコール	119番
警察官派出所 (79-2010)	110番
急病人 多良間診療所	79-2101
歯科診療所医師	79-2162
停電 沖縄電力多良間営業所	79-2147
断水 役場住民福祉課	79-2623
家畜疾病 役場産業経済課	79-2503
ガス専用JA多良間	090-6859-2355

救急に関すること (10月)

- ◆時間外救急受付 29件
- ◆救急車出動 1件
- ◆ヘリ搬送 1件
- 火災・救急ワンクッションコール: 119
- ※緊急の場合以外診療時間内での受診を心がけよう

村長のたうけーむぬゆむ(ひとりごと)

官武外骨(みやたけがいこつ)。この一風変わった名前。幼名を亀四郎といった。亀四郎の亀が、外骨内肉の動物であることにちなんで、17歳の時に戸籍上の本名を、外骨(がいこつ)に改めたという。昭和30年に亡くなり、今年で没後60年。明治から大正にかけ、ジャーナリストとして、政治家や官僚、行政機関、マスメディアを含めた権力の腐敗を言論により追求した。権力や権威に容赦のない筆誅(欠点や罪悪などを書きたてて厳しく責める)を加えた。新聞記者・編集者の先駆けで、奇人にして反骨。投獄されること実に4度。新聞・書籍など廃刊処分は実に17回を数えた。

官僚政治を嫌い、資本家のあぐどい所行をたたいた。強烈な毒舌と風刺で一般大衆の喝采を浴びた。編集方針に味がある。「威武(いぶ)(勢いが盛んで強く勇ましい)に屈せず富貴に淫せず(溺れず)、ユスリもやらずハツタリもせず、天下独特の癩癩(か

宮武外骨(みやたけがいこつ)。この一風変わった名前。幼名を亀四郎といった。亀四郎の亀が、外骨内肉の動物であることにちなんで、17歳の時に戸籍上の本名を、外骨(がいこつ)に改めたという。昭和30年に亡くなり、今年で没後60年。明治から大正にかけ、ジャーナリストとして、政治家や官僚、行政機関、マスメディアを含めた権力の腐敗を言論により追求した。権力や権威に容赦のない筆誅(欠点や罪悪などを書きたてて厳しく責める)を加えた。新聞記者・編集者の先駆けで、奇人にして反骨。投獄されること実に4度。新聞・書籍など廃刊処分は実に17回を数えた。

反権力の筆は大手商業紙にも向かう。「新聞社が営利事業に化して以来、主張も見識もゼロになり、編集部が営業部にさるるに至る」現在にも通じる警句である。「沖繩の二紙はつぶさないといけない」「マスコミを懲らしめろ」と言ってはばからない著名人や政治家。首相官邸の歓心を買うために姑息な言動を繰り返す政治家やマスコミ幹部。政府の顔色をうかがい自主規制に走るマスコミ。今、外骨(がいこつ)がいたならば、時の権力とマスコミにどんな紙つぶてを投げたか想像に難くない。日本の将来を左右しかねないTPP。政府



は秘密会合の「不都合な真実を」をひたかくし、大手マスコミ、御用学者も迎合し大筋合意を謀った。外骨(がいこつ)は泉下(あの世)でどう感じているだろうか。

強行採決された安保法制、国会議員による報道圧力発言など、国家による思想検閲やメディア規制が横行する、近未来の日本社会を暗示しているのではないだろうか。もしそうであれば、暗黒の世界となることは免れない。そうならないためにも、国民一人一人が政治に関心をもち、選挙で監視する必要があるのではないだろうか。

多良間村史(民話)よりシリーズ②

雨乞祭の由来

多良間のウペーガラユヌス、ト
 ユンガラユヌスは、一人で八重山
 に行き、ウパントヌアヤユヌス、
 ウプシガキメーラパイを訪ねた。
 「ね、メーラパイ様、私の家には年
 頃の美しい娘がいる。ところで貴
 方が日頃、大事にしておられる雨
 乞のニリを私に教えて下さるなら
 ば、そのお礼として、貴方のお望
 み通りに進ぜましょう。またおか
 げ様で、私の生まれ島でも豊年が
 続き、御主上納が、とどこおりな
 く出来ますならば、貴方のお手柄
 は、島の緑と共に、いつまでも光
 輝くでしょう。」とお願ひしたとこ
 ろ、メーラパイは、とびつかんば
 かりに喜んで、すぐにウペーガラ
 ユヌスに教えた。

その労をねぎらい、感謝の辞を
 のべたウペーガラユヌスは、やが
 て多良間島へ帰る準備をすすめて
 いた。この様子をうかがっていた
 メーラパイは、だまって見送るは
 ずはない。自分も行く用意をした。
 南風そよぐ「かりゆし」のある日の
 早朝、浜に一人急いでいるウペー
 ガラユヌスを後ろから呼ぶ人がい
 た。ふりむくと、約束を申し合わ

せたメーラパイだった。目尻を下
 げて笑っていた。舌打ちしたユヌ
 スは、仕方なく乗せることにした。
 ユヌスの心は、船に乗った時から
 すっかり変わっていた。

やがて多良間島に上陸すると、
 一足先に我が家へ急いで行き、娘
 に「これこれ、これだから」と言っ
 て、大きな樽でかくし、メーラパ
 イを待った。メーラパイは、美し
 い娘に会える喜びで、胸はトント
 ンし、目を細くし鼻の下を長くし
 て、満面微笑みをたたえてやって
 きた。するとユヌスは、「ね、メー
 ラパイ殿、折角遠方からのご来島、
 誠に申し訳がございません。あな
 たのご期待にそいたいが、数日前
 から娘は親の言うことに反対しど
 こかに逃げているようで、親とし
 てどうお詫び申してよいやら」と。
 メーラパイは、急に眉毛をつり上
 げ、下唇をかんだ。「よしッ、それ
 は貴殿の本心だろうな。こうなれ
 ば私にも覚悟があるぞ。後のた
 りは貴方の責任だ。どうだッ男に
 二言はあるまいな・・・では」メー
 ラパイはゾーリをパタパタ鳴らし
 て浜に急いだ。

ひやひやしていたユヌスは、心
 配していた娘の無事を願い、家の

裏にかくした娘の名を呼び呼び、
 樽を開けたところ、なんとかわい
 い娘の死骸もなかった。ユヌスは、
 涙ながらに娘を雨乞祭りの犠牲者
 として、ウイダペーに葬った。
 その後ユヌスは島の人に雨乞祭
 りとニリを教えたが、彼もまもな
 く娘の後を追うように、この世を
 去った。島の人たちは悲しみなが
 ら死んだ娘と同じところに葬った。
 それから親と娘二人を雨乞の神
 と祭っている。永い干ばつが続く
 と島民はお参りし、ニリを唱え恵
 みの雨を乞うのである。

・ウペーガラユヌスが島の人に教えた
 「ニリ」(神歌)の一部を紹介する。
 一、おそれおおいことですが

雨をめぐみ給え
 申し上げるのもおそれおおいが

二、おそれおおいことは知らずに
 雨をめぐみ給え

やむをえず申し上げます
 雨をめぐみ給え

三、運城御嶽におられる神よ
 雨をめぐみ給え

うぶ御嶽にお出になる神よ
 雨をめぐみ給え

村民ご意見箱を設置 (村役場)

村民の皆様から村の業務に関するご意見などを
 お寄せ頂き、より良い多良間村づくりに生かすため
 役場玄関にご意見箱を設置しました。

どうぞ、ご遠慮なくご意見をお寄せください。

※村の業務以外の意見や特定の人への中傷、営利目的
 などの内容は受け付けません。

広報たらま
 寄付金のお礼

渡久山 春正様 (宮古島市在)
 上間 麗子様 (那覇市在)
 ありがとうございます。

お詫びと訂正

広報たらま10月号において、4ページ掲載の「沖縄県の最低賃金」で
 平成27年10月8日から・・・と掲載しましたが、正しくは、
 平成27年10月9日から・・・の誤りです。訂正してお詫びします。

119番から始まる命のリレー

～住む人、訪れる人の安心・安全のために～

センター119 沖縄県消防指令センター

多良間村

火事・救急・救助・ワンクッションコールは

119番へ!

「センター119」運用開始について

火事や急病、けが人が発生した場合の緊急連絡先が変わります。

沖縄県消防指令センターの概要

沖縄県消防通信指令施設運営協議会とは、多良間村を含む36市町村で構成された電話通報119番を広域的にあつかう消防指令センターの上部組織です。平成27年11月から沖縄県消防指令センター「センター119」の一部運用の開始となります。沖縄県消防指令センターは、嘉手納町のニライ消防本部内に設置され、36市町村の救急や火事などの119番通報を一括で受付し、通報者への口頭指導や、診療所・消防等への関係機関へ連絡し迅速に対応することが可能な重要な施設となります。

運用が開始になると…

- ①急患や緊急時の通報先「090-6862-6490」から「119」へ変わります。
- ②沖縄県消防指令センターから、村内の役場担当（救急）、診療所、駐在への連絡が迅速になる。
- ③口頭指導により通報者が処置対応している時に、役場担当（救急）が到着し処置対応を代わることで、少しでも多くの傷病者が助かる確率がある。

**11月4日(水)からの緊急時の連絡先は、
「090-6862-6490」(役場)から119(沖縄県消防指令センター)となります。**